

### 8-1 神明宮 (満願寺)

天正年中(1572～91年)鎮座、宝暦10年(1760)消失、13年再建、文政元年(1818)再度消失、文政2年8月に再建された。阿賀野川改修工事により大正7年12月に学校橋から現在地に移転し、平成12年9月に改築されたものです。なお、大正6年に住吉社(境内社)、須賀社(字明六割)、諏訪神社(互賀村字万願寺上組)が神明宮に合祀されています。



### 8-2 満願寺の獅子舞 (満願寺)

満願寺には明治の中頃に神楽と獅子舞の両方があり、神明宮の大祭のとき、先を襲って宮上りをし、抹茶あいやけんかがつきものであったという。現在では、獅子だけが残り、満願寺獅子舞保存会が、毎年集落の小学(4年生以上)・中学・高校生を集めて研修会を催す等次世代への伝承に努めています。獅子舞は、雄獅子・雌獅子・追獅子の3匹獅子で舞われます。文政元年(1818年)8月に神明宮が消失し翌2年に再建したとき、上方から移入されたといわれています(縁々面に明治3年にこれを求めた旨記述あり、これ以前に遷ることは相違ありません)。また、隣接の江南区川根谷内の獅子舞の系統を引くと伝えられていますが(新津市誌)、確かな記録は存在していません。



### 8-3 満願寺金剛力士像 (満願寺)

満願寺観音堂を護る仁王門の左右に一對の金剛力士像が安置されています。仁王門は、天和元年(1681年)に石川与次右衛門が建立したものであると言われています。大正7年(1918年)9月に、河川改修工事のため観音堂とともに現在地に移されたものです。金剛力士像は、仏法の守護神である密宗金剛(向かって右の口を閉じている阿形(阿)の像)と那羅延金剛(左の口を開けた阿形の像)で、インド古来の武器金剛杵を持った武神、力のある武神であることから金剛力士と言われます。一般には、二つの神王という意味で仁王(二王)様と呼ばれ親しまれています。



### 8-4 観音堂 (満願寺)

天正年中(1573～91年)に創立。沢海藩第2代溝川土佐守正勝から田畑の寄進を受けるなどしましたが、延宝8年(1680年)に水害を受け翌年天和元年に石川与次右衛門によって再興されたと言います。寛保元年(1742年)以前に水原の長楽寺第17世如露達実が満願33番観音を設け、その11番札所となりました。大正7年(1918年)9月阿賀野川改修工事により字校橋から現在地に移転したものです。



### 9 満願寺公園 (満願寺)

満願寺水門・閘門の周辺河川敷地を利用して満願寺公園が造られています。春には桜や藤の花で爛漫となり、多くの家族連れで賑わいます。その他、公園には、阿賀野川改修記念碑や殉職者慰霊碑、基準点標石(11.723m・内務省陸地測量部…第1期改修工事の施工高の基準点となったもの)などを見ることができます。



### 10 小阿賀野川のウライ漁 (満願寺)

ウライ漁は川幅いっぱい舟を設けて、上流へ向かう鮎を「おし籠」へ導いて捕獲する漁法です。昭和57年頃から地域の新鮮鮎産産組合の人達が、小阿賀野川水門下流に「ウライ」を仕掛けて鮎を捕獲し採卵、人工孵化させた稚魚を翌春に川へ放流します。稚魚は海へ出て回遊し大きくなって、産卵のために生まれた川に帰る習性を利用して一括採捕です。ウライ漁は鮎が遡上する10月上旬～12月中旬の期間のみです。



### 11 満願寺水門・閘門 (満願寺)

満願寺水門・閘門は、大正4年～昭和9年にかけて阿賀野川の第1期改修工事を実施した際、阿賀野川から小阿賀野川への流入量調節と舟運確保のために分派点に設置されましたが、その後第1期策定流量6,950 m<sup>3</sup>/sが第3・4次治水事業5カ年計画(昭和43～51年)で計画高水流量を11,000 m<sup>3</sup>/sと改めたことに伴い、当該地先で堰ね2mの堤防嵩上げと構造物の改築が必要となり、昭和49年に現在の施設に改築されたものです。満願寺閘門は、小阿賀野川のみ口地点での阿賀野川本川との水位差(1.5m～2.0m)を閘室によって水位調整して船の通過を円滑にするための施設です。



### 12 小阿賀野川 (満願寺)

新潟港付近で信濃川へ合流していた阿賀野川が享保16年(1731年)の洪水により松ヶ崎放水路が決壊し日本海に直接流下するようになったことから、河口では水位の低下と堆砂が短縮し、港の水深は著しく減少して港湾機能の低下が生じたこととなった。そこで、新発田藩(領内の沼垂港満潮機能は壊滅的であった)によって享保19年(1734年)～元文5年(1740年)に河口への流量対策として阿賀野川より信濃川へ通じている小阿賀野川の改修(拡幅・掘削・築堤・舟運確保)工事が実施され、また第1期改修工事において信濃川までの約10kmについて洪水時の舟運確保のため河道の浚渫、掘削が行われほぼ現在の河状となりました。なお、昭和初期までの小阿賀野川は、阿賀野川と信濃川を連絡し、会津若松、津川、新発田、新潟、三条、長岡等へと繋がる主要な人員・物資の輸送(舟運)路でありました。



### 13 満日保育園 (七日町)

昭和27年5月に村内にあった青年会場を借りて、満日婦人会立季節保育所として開設され、同年12月から通年制となりました。昭和45年10月社会福祉法人満日保育園として発足(定員60人)、昭和53年3月園舎移転新築工事が完了し新園舎で保育が開始されました。平成24年3月に創立60周年記念を挙行、卒園児1,692名。



### 14 庚申堂 (七日町)

仏法の守護神帝釈天の使者である青面金剛を祀っている。天明の飢饉のさなか、天明5年(1785)3月31日に42名の発起により、宇野田に石塔を建てたのが始まりと言われています。後に茅葺きの庚申堂となつて維持され、昭和20年に耕地整理のため現在地に移転されました。60日で巡る庚申の日に講中でお祭りされていました。堂は梁間一間、桁間一間で内陣を設け、松巡り、格天井の画は、大泉鉄泉の筆による秀作で改築前のものを用いています。本堂の別当は明学院で維持されています。



### 15 満日山不染寺 (七日町)

開祖増井仁太郎は東嶋妙蓮寺、加茂定道師の門弟となつて仏門に入り修行後、現在の地に庵室・日蓮宗釈道堂を構え、過天と号し本尊釈迦牟尼仏を安置した。次第に信者が増し、ここにツツガ虫よけの霊験あらたかなりと近郷からの参詣者が列をなしたという。後に増井通善上人の代に至り、北蒲原郡堀越村宇中湯の「無等不染院」を七日町へ移転、改名が決まり満日山不染寺となる。



### 16 水害対策の水蔵 (七日町)

満日地区は、阿賀野川、能代川、小阿賀野川に囲まれた位置にあります。今こそ河川や堤防が整備されて水害による被害がなくなりましたが、昔は河川の増水は度々破壊をもたらす水害に悩まされてきました。水害対策として土を高く積み上げ、その上に蔵を建てて家財や食料等を水害から守ったのです。大正2年の大水害では、蔵の土盛り面まで水が上がり下駄が浮いたと伝えられています。今日でも数棟の水蔵が現存しています。



### 17-1 稲荷神社 (七日町)

七日町の鎮守・稲荷神社はその昔、上荷(上河川)原に鎮座のところ、慶長元年(1596)今より約400年前に別当行高院(普賢院の前)の地所に社殿を建立し移転しました。その後さらに延宝6年(1678)に現在地に奉遷されました。稲荷神社は食物、特に稲作を司り五穀豊饒の神であります。拝殿の格天井には大泉鉄泉画伯の筆による秀作が残っています。



### 17-2 七日町的神楽 (七日町)

稲荷神社に奉納する神楽は近郷に知られた大神楽であり延宝6年稲荷神社が現在地へ遷座のとき京都の伏見から伝えられたとの説があります。昭和50年に獅子・神楽の研究者の鑑定によると約250余年前に京都の名工による作であるとの権威ある折り紙がつけられた由緒ある大里神楽であります。背景には神楽と天狗による舞い込み後、本殿へ入り悪魔払いを舞う。その後、神楽内の様子が各種の舞を奉納しています。大祭日は、町内の主な役員等の世帯や他で悪魔払いをしています。



### 17-3 大泉鉄泉 (七日町)

大泉鉄泉は嘉永2年(1849年)に生まれ、本名を寛三といひ、自作農家の一人息子で好きな絵ばかりを描いていました。父は百姓をさせることを断念し、亀田町の画家鉄秀に師事させると、寛三の上達は目覚ましく師匠の鉄秀もその才能の良さに驚嘆し、一人前になった寛三に鉄泉と称せました。鉄泉は人物絵と動物絵が特に得意であった。今に残る作品としては、龍橋寺、稲荷神社、庚申堂、古峯神社の格天井や掛軸などの秀作があります。



### 17-4 阿賀満戦没者顕彰位 (七日町)

阿賀浦地区と満日地区で、日清～日露戦争、満洲一日支事変、太平洋戦争で戦死されました156柱の顕彰位です。戦死者の氏名や戦死地が記されており、昭和159年に阿賀満地区奉賛会・阿賀満地区遺族会によって建立されました。



### 18 塔婆様 (七日町)

小阿賀野川堤防脇に「南無妙法蓮華経」と彫ったお題目石塔が建っています。1788年に「七日町題目講中一結川」によって建立されました。題目講は日蓮宗僧侶の講であり、五穀豊穡と水難除けを祈願して建てられたようです。現在は七日町・大蔵の題目講中と日蓮宗不染寺住職によって維持されています。



### 19 高速道路下の壁画 (七日町、満願寺)

七日町街道・満願寺福架木並木(市道)を横断する磐越自動車道下(カルバートボックス)に壁画が描かれています。平成6年、磐越自動車道(安田～新潟中央IC)が開通、薄暗い道路下の環境を明るく整備しようとする市内中学生が描いた原画(空・飛ぶ、海・泳ぐ、はさ木並木の春秋)を壁画として描写したものです。

